

昔々、とても信心深い男がいた。彼は神を深く愛し、また非常に正直だった。彼は一人の娘と結婚して長い間暮らしたが、彼らはとても貧しく、生活するのがやっとだった。彼は、自分たちの極めて危うい状態に不安になって、10年間連れ添った妻と別居することを決めた。というのも、彼はどうやって切り抜ければよいかわからなかったからである。そうすると、二人目の妻をもらうように勧められた。彼は長い間考え、一人でも苦勞しているのに、二人も配偶者がいたらどうやってやりくりできるだろうかと自問した。熟考の末、彼は二人目の妻を持つことにした。しかし何も解決せず、彼は二人の妻を養うには至らなかった。彼は第一夫人に会いに行き、自分が第二夫人のところで寝ることを告げた。

彼は第二夫人の家で、椅子に腰を落ち着けて朝まで考え込んだ、翌々日も椅子の上でずっと物思いにふけていた。妻は不安になって彼らは話し合った。彼は妻に言った：「明日の朝、私は妻の二人と離婚する。私はもうどうにも出来ないからだ」。妻は、彼が父親からもらった子山羊を連れて来て、それを売りに行けばいいと勧めた。それを売れば小さな店を開くことが出来るだろうと彼は同意した。

翌朝彼は子山羊の綱をほどいて売りに出かけた。彼は長い間歩き、とある村に着いたところで、呼び止められ、スルタンの許に連れて行かれた。スルタンは彼の山羊を幾らで売ってくれるかを尋ね、彼は値段はスルタン次第でスルタンがくれるものなら何でももらうと答えた。スルタンは彼に子山羊を持ってくるよう言い、代わりに彼に犬を与えた。彼は、自分がムスリムなので犬で何が出来るだろうか、また妻に何と言おうか思案した。彼は犬を庭に繋いでおいた。妻は彼が何をしたのか尋ね、彼は売り買いについて話した。彼女は夫を信頼していたので気にかけなかった。

翌日の朝、彼は妻に犬を見せるために、義弟に犬を連れて来るよう頼んだ。犬は逃げていたので、彼らはその日、翌日、翌々日も探し、彼らが見つけた時には穴を掘っているところだった。犬は彼らを見るとまた逃げ出した。夫は掘り始め、義弟に言った：「私は神を信じている。私は敬愛するスルタンに会いに出かけた。私はスルタンが牛かお金をくれるのだと思っていたけれど、彼は犬を与えることにした。私は犬を連れて戻ったのに妻は私のことを信頼してくれたのだ」。彼らは穴を掘り、金やダイヤモンドなどあらゆる種類のお宝が詰まった壺を幾つか見つけ、百万長者になった。